

エド Ed.ベンチャー行動宣言

新自由主義が世界を席卷し、貧困を生み出す格差社会が日本でも急速に進行するなか、私たち「Ed.ベンチャー」は、「社会資源を持たざる弱い立場の子どもたち」と学校・先生方を支援するために、教育支援に特化したNPO法人として、6年間活動を展開してきました。

しかし残念ながら、この間も社会状況はますます弱い者たちにとって生きづらい方向へと進んできました。非正規雇用は働く人の4割を占め、貧困が私たちのすぐそばに迫っています。若者たちは就労に不安を抱え、自分たちの将来に展望を見いだすことができません。子どもたちは消費と情報に振り回される一方、過度な競争へと駆り立てられ、功利的な「学力」ばかりが叫ばれるなかで、学ぶことの意味や喜びも忘れられようとしています。

まして東日本大震災以後、弱い者たちへのひずみはますますくっきりと浮かび上がってきました。声高に叫ばれる景気回復も大企業を中心としたものであり、仮設住宅に生活する人々の生活は、まるで忘れ去られたかのように少しも変わることがありません。憲法改正をめぐる世の中に火薬のにおいが満ちている現在も、原発事故よって奪われた地域は目に見えない放射能で汚染され、人々のもとに豊かな生活と故郷がもどって来ることは二度とありません。

「あくまでも経済発展を優先する勝ち組中心」の社会を振り返るとき、私たち「Ed.ベンチャー」は、自分たちが果たすべき役割がますます重要なものになっていることに気づかされます。それは、本当に小さな弱々しい活動ではあっても、そのことを必要としてくれている人たちが確実にいるからなのです。しかし残念ながらこのことは同時に、取り残され、弱い立場として生きざるを得ない人々が増えていることを意味しているのです。

こうした状況のもと、私たちは、団体の設立趣意を中心に以下の点を確認し、活動への決意を新たにしたいと思います。

- 1 弱い立場の子どもたち、また、子どもたちを支える学校や先生方を支援します。
- 2 日本で生活する外国の人たちを、教育の側面で支援します。
- 3 東日本大震災の被害に対し、子どもと学校への支援に今後も取り組みます。
- 4 原子力発電への反対を表明します。

私たちの力は微々たるものかもしれませんが、そして、社会のひずみはなかなかなくなるかもしれません。しかしだからこそ私たちは、目の前の子どもたちに、そして明日の社会に対し、少しでも責任をとるために行動していきたいと考えています。

2014年2月15日 総会にて